

科

供覽

海軍省

軍務局

陸

水

科

西伯利觀 其二

(大正九年一月三十日)

井上結松

西伯利ニ於ケル社會革命黨ハ諸種ノ事情ノ下ニ永ク逆境ニ彷徨セル結果今ヤ昔日ノ面影ヲ駐ルルコトナク其ノ大半ハ既ニ過激化シ然ル者至少クモ過激派ト提携事ヲ爲スノ捷徑ナラ覺ラセメ遂ニ之ヲ過激派ト區分識別スノ困難尤モナルニ至リタリ而モ右偏^ハマエ^ルニ^{シテ}其ノ德健ナルト尚昔日ノ如ク^ト難モ妻^クハ資産階級ニ屬シ不逞軍隊及勞動者ノ威嚇ニ遭遇セバ直ニ萎縮スル無力ノ徒ニシテ大勢ニ逆行シテ立ッノ慨アルモノナラス、

而シテ全然過激化シ若シクハ之ト提携セル左偏^コエ^ルカ各地ノ過激派ト結托シ漸次其ノ氣勢ヲ揚ケ巧^クミニ^コエ^ルラ標榜シ世ヲ

9.2.20 0370

欺瞞シヨレヤツシ政府倒壊機ニ乘レ有テ術策ヲ弄シ政權獲
得ノ目的ヲ以テ先ツ露國軍隊ノ攪乱ニ努ムル結果其攪乱
道走相亞シテ勃發セルト當軍司令部通報ノ如シ、
纏ヲ及過激派團體就テ見ルニ今ヤ、セムシロヤク及ホワットノ運
緊緊密ヲ欠キ殊ニロザノク、ホワットノ如キハ一意現在ノ地位ヲ
保持スニ吸々タル裏面ニ亡命ニ資スル目的ニテアリカ終始私利ヲ
收ムルニ努ムタルノ跡歴然タルノ實情ナリ獨リセムシロノ刻リテハ個
人トシテ尚ホ武人的面影ノ實存スルモノアリト雖モ彼元來一々ノ
武辯ニシテ國家ヲ料理シ得ル大器ニシカルト彼ヲ圍繞ス幾多不純
分子ノ小策トハ惜哉遂日彼ノ人望ヲ失墜セテツレハ傾向ナシトセス、
惟テ天勢ハ今ヤカノ問題ニシテ帝國ノ對過激派態度ノ軟化カ

G371

過激派勢力ノ強大ヲ誘致スルハ自然ノ結果ナルト共ニ快男児トシテ
 之レカ如何ニ惡戦苦闘ヲ繼續スルモ亦既ニ無援孤立ニ陥ラント
 シンアルノ現況ヲ押ス時西伯利ノ全過激化ハ蓋シ時ノ問題ニシテ
 失ハサルモト、觀察セラル若シ夫レ西伯利カ再ヒ過激化志曉ニ於テ
 ハ既往ノ實蹟ニ鑑ミルモ強制的共産主義實行結果ハ一般
 民衆殊ニ勞働階級ヲ層放縱懶惰ニ馴致シ益々産業ヲ萎
 靡セシメ経済的窮乏之更ニ其度ヲ進メ隨所ニ強盗團横行ヲ
 見ルナリ直ニ右状スカラル状態ニ陥ルハ必然ニシテ過激派カ利
 用シテ政權獲得ヲ企圖スルニ至ル一服カ今日ニ至ル黨軍ノ廢止
 民力休養ノ如キ蓋シ夢ノ想カシモ値ヤルヤシ、而シテ西伯利ノ過
 激化ハ即チ全露ノ過激化ヲ意味スルニ至ルハキクテ一部人ノ間ニハ

0372

過激派政府ト云々將來必々其ノ政策ヲ軟化スドノ見地ニ基キ
今日之ト妥協スル達ヲ標スル蓋シ口得策トセカチヤノ説ニモ
多ク如キ者ゾ以テ其ノ時機ヲミルヘシ蓋シ過激派ト雖モ現時ノ極
多複雑ナル世界ノ經濟的状態ノ間ニ處セシハ列國ト通商周
係ナシテ全然孤立獨存スル難キハ明ナル所ナリ以テ過激派政府
ハ早晚其ノ政策ヲ軟化シテ列國ニ望ムヘシト吾人モ亦之ヲ豫想スル所
ナルモ多ク數民衆ニ覆潤セル放逸的過激思想ニ至リテハ列國ニ朝
一トシテ变革ヲ得ルハキモニアカシク成セスルハ至ス 即チ過激派政
府ガ對列國關係上過早ニ其ノ政策ヲ軟化セシカハ必然過激的
民意ヲ収合スルヲ得ズシテ再ヒ内訌ヲ生スルノ動機トナリ更ニ動乱ヲ
新シテ歩一歩露國ヲ帝落ノ底ニ沈淪セシムルニ至ルハキヤ明ナルヲ以テ

0373

過激政府過早ナル政策軟化ハ寧ロ之ヲ表面的モト觀察
ルニ甚カシテ此間過激思想ハ殆々トテ四周ニ傳播スル吾人過早
單純ニ妥協政策ニ満足不能モルニテ見ユ、

要スルニ過激派ノ真ノ覺醒ハ一旦全露ヲ全然激化ニ彼等ノ俾ル所
ヲ行ハシメ依テ以テ共產主義ノ實施ニ基キテ必然歸著矣到達
セシメ自ラ窮乏ノ真底ニ陥リし後ニ到來モト見ルハ吾人カ
露國トノ真ノ妥協提携ハ此ノ時機ニ於テ他ヲ期待スルヲ得レモ
ハ抑テ思ハシム

夫レ策ノ最モ宜シキヲ施サルニテト雖モ右ノ時機迄萬事ヲ自然ノ
推移ニ放任セシカ露國カ過激思想ヨリ覺醒スル時ハ即チ吾人
カ支那朝鮮ニ蔓延セル過激思想ニ甚ク時ニシテ純理ノ下ニ徹スル

257

ヲ得ルニ事情不々明ナリ故ニ若シ帝國ノ對政政策及財的方面ノ
 關係上大策ヲ斷行スルヲ得ルモアリトセハ責ヲハ滿州ニ於テ既得利
 權及朝鮮ヲ確保スルニ足ル程度ニ於テ且ツ其自的ヲ叶フ如ク西伯利
 駐兵ノ方針並ニ配備ヲ確定スルヲ現下ノ急務ナリト認ムル列國ノ
 對露方針ニ大變化ヲ來セル旨ニ於テ吾人カ尚過去ニ於テ實ニ
 ル人年財帛ニ憑着シテ代價價獲得ニ志アリトセハ之ヲ寧リ口説見
 ニアザルナカレ

終

0375

海軍省

供覽

水

軍務局

小森

西伯利觀 其ノ三

井上結存中佐

西伯利政情ノ變遷ニ就テハ概ネ當軍司令部通
 報西伯利時局觀ノ如シ但シ現下ノ政情ヲ剔致スル
 真國ニ至リテハ素ヨリ大勢ノ司配スル所ナリト云亦以
 ラ西伯利ニ於ケル輿國間ノ政略戰ニ俟所甚ク大
 ナルモノナルヲ觀見ユ、今之ヲ浦塩政變ニ就キ規ハシ
 今次ノ政變ニ勝利ヲ占メタル政治團カ今後各地ノ過激
 派ヲ糾合シ益々其勢力ヲ伸張シ今ヤ無援孤立ノ姿ニ
 陥ルメノコトヲ倒壞スルニ至ラハ西伯利ハ再ヒ興
 國ノ出兵以前ノ狀態ニ復返スルモノト認メサルヲ得ス若シ

0376

軍務局受 9.2.26

夫レ現状カ過去ニ比シ聊カ平靜ヲ保テツアルカ如キニ至リ
テハ之レ將ニ颶風ノ中心ニ於ケル無風ニアラサレハ嚴正中ニ
ラ保持スル皇軍駐屯ノ固持効果ニ因ルモノトセサルハカラス
シテ一定時機ノ経過又ハ我カ軍ノ壓力ヲ除去セハ再ビ混沌
タル旧状ニ復斂スヘキハ火ヲ睹ルヨリ明カナル所ナリトス依是
觀之ハ過去ニケ年間ノ西伯利ニ於ケル聯合軍ノ行動
ハ徒ラニ西伯利ノ政情ヲ紛糾シ其ノ自然ノ斂著点ニ
到達スルヲ遲延セシメタルニ過キサルモノニテ斯クノ如キハ與
國カ互ニ協調ヲロニスルモ裏面ニ於テハ我利ニ急ニシテ毫モ
誠意ノ認ムヘキモノナリ唯タ政略的暗闘ヲ專ラシ終始
虎視眈々トシテ機ノ乘スヘキヲ窺ヒ甲右黨ニ通スレハ

小林文七郎筆出張印刷

0377

乙ハ左黨ト結ヒ丙中正ヲ保持セントスレハ丁之ヲ妨害
シ而モ表面ニ於テモ強弱二者間ニ於ケル協調ハ自然ノ
結果トシテ弱者ノ強者ニ對スル跟隨トナリ遂ニ今日ノ政
情ヲ馴致シタルモノニ外ナラス
惟ニ米國ト虽其ノ國情ニ鑑ミル時ハ全露ヲ全然過激
化スルハ決シテ好ム所ニアラサルナラン然レトモ今ヤ米國ハ其ノ
對内政策上今後西伯利ニ徹底的政策ヲ施ス能ハサル
ノ事情ヲ生レ從來ノ對西伯利政策ヲ中絶スルノ止ムナキ
ニ至ルト共ニ一面ニ於テハ内心西伯利ノ將來ヲ日本ノ独占ニ
委ヌルヲ欲ス從テ米軍ヲ西伯利ヨリ撤退スルニ~~能~~ミテハ
~~能~~ニ何等カ施ス所ナカルヘカラサルニ至ルモノニシテ鄙見ヲ以

0378

ラスレハ米國ハ左記ニ策ノ内何レカニ依リ聊カ其ノ終ヲ飾
ラントセシヤ想案スルニ難ナラス

一爲し得レハ其撤退前西伯利ノ政權ヲ米國ニ都合ヨキ

「エスエル」一派ニ移シ其ノ好感裡ニ西伯利ヲ去リ將來ニ於ケル經
濟的發展ノ素地ヲ作り置ク事ト

ニ第一策ニシテ失敗ニ終ラハ要スレハ過激派ヲスラ支援シ寧

ロ西伯利ヲ全然過激化シ將來日本ノ独力ヲ以テシテハ到

底西伯利ヲ整理スル能ハサラシムルニナラス累ヲ朝鮮統

治ニマテ及ホシ東洋ニ於ケル帝國ノ立場ヲ益々困難ナラシメ

ント企圖スル事ト

而シテ之ヲ最近ニ於ケル米軍ノ行動ニ依ラ兎ルニ裏キ「カイダ

小林文七郎著 政治経済新聞

0379

事件ニ失敗シ且ツ各地守備兵ノ行動甚ダ誠意ヲ欠ク
結果遂日米軍ノ聲望露人間ニ失墜スルニ至リテヨリ之カ
挽回策ニ苦心シ遂ニ政変ノ中心ヲ伊市ニ移シヨケエツクヲ使
候ニ伊市政變ヲ惹起スルト同時ニ命令傳達上ノ手邊
ナリト辨シ何等帝國ニ通告スル所ナリシテ突如撤兵ヲ聲
明シ以テ一般形勢ノ轉移ヲ企圖セリ之レ明ニ米國カ先ツ
前記第一策ヲ實施ノ最初ノ試ニ外ナラサルモノナリ然ルニ當
時帝國ノ態度ハ未タ今日程ニ軟化セズ從テ我カ軍ハ嚴
然トシテ中正ヲ持シ秩序維持ニ努メタルヲ以テ伊市方面
ニ於テ米軍及カ軍カ勞働者ノ煽動其他諸種ノ惡
辣手段ヲ弄シテ支援ニ努メタルニ拘ハラズ遂ニ伊市政

0380

表モ龍頭蛇尾ノ結果ニ終リタルヲ見ル由ヒ米國ハ今
更口ニスルノ要ナキヲテ之ニ還送ヲ名トシ撤兵ノ若干期間
延期ヲ聲明スルト同時ニ撤兵問題ニ関スル我カ所望議ニ
對シ甚タ不鮮明ナル回答ヲ以テシ帝國ヲ止メテ今次ノ聲
明ヲナスノ狀況ヲ別致シ以テ過激激勢力ノ増進ヲ誘致シ
遂ニ今次ノ浦塩政變ヲ以テ其ノ第一策遂行ニ入レルモノト
見カルヲ得久蓋シ本政變ニ就キ米國カ及政府黨首
領ヲメドウエーシエロ(沿海州自治會長)ト立分ノ連繫ヲ
保持シ且ツラケツラト共ニ陰ニ及政府黨ノ支持ニ努メ
タルハ周知ノ事實タルヲ以テナリ

斯ク如クニ極メテ誠意實ニ嚴正中立ヲ保持セル事

✓
國軍ハ從來ノ關係上今ヤ益々一般ニ惡感ヲ以テ迎ヘラレツ
、アルニ比シ米軍及^レ日軍カ過去ノ失敗ニ對シヤ倍スル効果ヲ
收メ得タルニ想到スル時ハ之ヲガイダ^ル事件ニ對比シ今昔感ニ堪
ヘサルモアルト共ニ西伯利ノ將來ニ對シ更ニ吾人ノ緊禱ヲ促
スノ功ナルモノアルヲ覺^スエシム

而シテ^レチエツクニ至リテハ全ク米軍ノ傀儡ニ過^キキサル事ハ彼等
カ當方面ニ於テハ盛ニ^ニ政府黨ニ左袒シ甚タシキニ至リテハ數
百ノ過激派ヲスラ其ノ軍營ニ收容シ今次ノ政變ニ利用セ
シニ拘ハラヌ伊市以西ニ於テハ再ヒ^レカツパリ^ル將軍(オムス^ク
軍總指揮官)ト氣脈ヲ通シ對過激派行動ヲ新ニ
ツ、アルノミナラス最近ノ情報ニ依リハ伊市ニ於ケル^レチエツク^クハ

0332

同地赤衛軍及ゴエヒラ全然駆逐セリト云フ相矛盾スル
 軍實ヨリテ見ルモ何等是見アルモノニアラスク唯當面ノ状況
 度カレ強者ノ使喚ニ依テ勤事幸恰モ水ノ俄キニツクカ如ク
 西伯利ノ將來ニ関シ敢テ重視スルノ要ナキモノナリト雖モ其ノ
 西伯利ノ將來ニ関シ敢テ重視スルノ要ナキモノナリト雖モ其ノ
 西伯利ノ將來ニ関シ敢テ重視スルノ要ナキモノナリト雖モ其ノ
 有スルカケニ時々大ニ利用ノ途アルモ尙ホ我ニ有害ナル場合
 多カルヘキヲ思ハサルヲ得ク伊市方面ニ於ケルヲテエツク軍ノ行
 動ニ関スル最近情報果シテ真ナリトセハ彼等ハ近クセメノ
 口實ト大ニ妥協シ再ヒ政情ヲ轉回スルニ至ラシムルノ形勢ナリ
 トセサルモ斯クノ如キハ西伯利ノ政情ヲ益々紛糾セシメ中官
 兼ニ西伯利觀其ノニ速ヘタル如ク西伯利ヲテ其自然ノ

小林文七朝鮮出張書印

0333

般着点ニ到達セシムルノ期ヲ益々遅延スルニ過キヤラ以テ
寧テ口ヲエツクニ速ニ露國外ニ撤出シ且ツ米軍西伯利撤退ノ
期ヲ提進スルヲ適策ナリト認ム

而シテ帝國ノ對西伯利方針未タ確實ニセサルニ先タケ浦塩
政變後ニ般趨勢カ着々前記米國ノ第二計畫ノ終点
ニ向テ走リツ、アンニ至リテハ素ヨリ豫期シタル事ナリト虽モ尙
遺憾ノ念禁スル能ハス即チ今ヤフメドウエージエハハ新政府
ニ於ケル最高權ヲ掌握シツ、アルモ其司令部内ニ於テハ樹
立スヘキ新政府ノ内容ヲエスエ止的ノモノトスヘキヤ將タ又過激派
(共産的)ノモノトナスヘキヤニ就キ意見ノ一致ヲ見ス形勢ハ頗
ル過激派ニ有利ナルヲ以テフメドウエージエハハ失脚又ハ彼ノ全然

0334

過激派化スルハ時ノ問題ニ過キサルヘケルナリ

以上ノ状況ヨリ推シ此際帝國ノ採ルべき策ヲ案スルニ左記

三策ノ何レカニ絞着スヘシ

一進ヲ過激派ト妥協シ其ノ要求ヲ容シテ速カニ撤兵スルコト

二我カ現在兵カラ適當ニ集結シ過激派ヲ敵ト認メ自衛手

段ヲ講スルコト

三速カニ我カ兵カラソコトソコト及浦塩方面ニ集結シ居留

民保護ヲ名トシテ駐兵ヲ繼續シ以テ小官西伯利觀其

ニ於テ速ハタル如ク過激派ノ滿州及朝鮮ニ侵入スルヲ防

止スルト共ニ將來ニ於ケル形勢ノ變化ニ備フルコト

以上三策ノ内撤兵ハ過激派トノ妥協ヲ前提トセサルハ何

等意義ヲナスモノニアラスニテ而モ現況ハ未タ以テ過激派ト
ノ妥協ノ時機ニアラサルコト小官曩キ西伯利觀其ノニニ述ヘ
タル所ニテ從テ撤兵ハ帝國ノ爲メ決シテ策ノ得タルモノニアラス
若シ此際過軍ニ撤兵セシカ或ハ百年ノ悔ヲ遺スコトナキヲ保セ
サルヘリ變化窮リナキ西伯利ノ政情ニ對シ目前ノ小變化ニ
捉ハレ朝三暮四ノ政策ヲ採ルハ全然忌避セサルヘカラサルモノ
アルヲ覺ユ

而シテ過激派主義ノ永續性ヲ有セザルコトハ亦敢テ論議ヲ要セザ
ル所ニテ過激派ト雖將來必スヤ覺醒スルニ至ルヘキモノトモセハ
今日目前ノ小利害ニ捉ハレ自發的ニ求メテ之ト交戦スルハ國家
ノ大策トシテハ聊カ疑問トセサルヘカラサル所ニテ觀シ來レハ吾

0386

人前記三策中第三策ニ據ルノ尤モ特宜ニ適セルモノナルノ感ヲ深
クセサルヲ得ズ

惟テ今駐兵スルハ其實實施取テ困難ナラサルト共ニ駐兵
セハ一面ニ於テ其背後(滿州朝鮮)ヲ安全ナラシムルノミナラス必ス
ヤ將來ニ於テ何等カ乘スヘキノ機ヲ捕捉シ得ヘケンモ將來
狀況ノ變化ニヨリ新ニ出兵センコトハ對列國關係及我カ對
内政策上其ノ逐行ヲ至難ナラシムルヤ明ニシテ此ノ場合ニ於ケル
損害ハ今ヤ甚ダ怪シキ運命ニ在ル東清鐵道ノ現況ニ
鑑ミルモ人今日駐兵ニヨリ失フ所ノ人命財帛ト計數シ得
ヘキモノニアラサルナキカ

小外文七部録五部庚辰印

0337

極秘

供



軍務局

小林

井上健中提督

西伯利觀 其四 (大正九年二月末)

過般ノ浦潮政変以來各方面ニ於ケル狀況ハ著々豫期ノ如ク伸展シ今ヤ北海黒龍ノ二州ハ全然革命軍(大)体ニ於テ過激派ト觀察スルヲ妥當トスノ掌握スル所トナリ僅ニ後貝加爾州ノミヲセヨクニヨリ及過激派的命脉ヲ存スト虽モ帝國ノ態度変更ニ伴フ大勢ノ推移ハ同州ニ於テス()道所ニ農民軍ノ蜂起ヲ見ルニ至()逐日セ()ミフ()軍()崩壊ヲ來タレ今ヤ万餘ヲ以テ()數()ニ過()キサル彼ノ軍隊モ其ノ信賴シ得ルモノニ至リテハ内數千ニ過()キサルノ實情ニシテ最近「オムス」方面ヨリ東退シ來レル「ウイツ

0388

エフオフスキ山兵團(旧カヅパリーレ兵團)ニテ銃數約一万二千
ノ之ニ合セントスルアリテ聊カ及過激派軍ノ士氣ヲ振興セルモノ
アリト虽モ該兵團ハ長途行軍ノ疲勞ト軍需 缺乏甚
クシキノ故ヲ以テ與フルニ濶澤ナル軍需ト休養トヲ以テスルニ
ラサレハ遽カニ實用ニ供シ得ヘカラサルハ言フ俟タサル所ナリ
若シ夫レ日本軍ノ支援ヲ唯一ノ頼ミトシテ千辛萬苦ヲ犯
シ漸ク後貝加爾州ニ到達セル彼等カ我軍ノ態度ニ関
シ甚クシテ豫期ニ及スルモノアルヲ自覺スルニ至ラハ失意ノ
極寧口自暴自棄ニ陥リ遂ニ過軍ニ投スルノ恐ナシトセス
一般状況右ノ如クナルヲ以テ極東露領ノ穩健分子ハ今ヤ
全ク其ノ聲ヲ断テ一般輿論ハ排日氣分ヲ以テ充タサレ曰日

○
ノ新聞論調ノ如キ一トシテ我軍ヲ誹謗シ且ツ其ノ撤退要求
ヲ論議セサルハナク甚タシキニ至リテハ共產黨ノ名ヲ以テ我カ皇
室ノ尊嚴ヲ侵害スルカ如キ宣傳書ヲスラ散布スル者アル
ニ至レリ此等政情ノ悪化ハ一ハ過去ニ於ケル我カ對過激派
政策ノ反映ト帝國ノ領土の經濟的野心ニ對スル露人ノ
猜疑心ニ基クモノタルヘシト虽尚ホ革命軍ノ背後ニ於ケル米
國ノ使倭ニ起因スル所甚タ大ナルモノアルヲ認メサルヲ得ス殊ニ最
近ニ至リ米軍ノ革命軍支援行動ハ仔細ナル手段ノ下ニ
益々顯著トナリ革命軍ノ進ム所必ス米軍ノ赤十字列車
ヲ隨從シ救恤ヲ名トシ革命軍ノ給養ニ任スルカ如キ或ハ
ヲテエソクニ還送ニ関スル鉄道輸送問題ヲ利用シ及過激派

0390

露軍ノ壓迫ニ努ムルカ如キ以テ其一端ヲ窺フニ足ル所ニシテ
彼等ハ其本國ノ返還ノ期漸次近ツクト共ニ其出發前極
東殘存唯一ノ右黨タルロメノコラ倒壊シ小官量曩キニ西伯利
亞觀其ノミヲ以テ陳述セル最後ノ政策ヲ徹底セシムルニ慮
ニツ、アルハ既ニ疑フノ餘地ナキ所ナリトス
然リ而シテ帝國今後ノ政策ニ至リテハ主トシテ右海州及
露支國境ニ駐兵シ民^海留民ノ保護ト不逞鮮人ノ取締
ニ任スルノ外軍駐屯ノ關係効果ヨリ過激思想ノ朝鮮
及滿州ニ侵入スルヲ可成防壁スルニ努メ將來形勢ノ
變化ニ應ジ機動シ依テ以テ帝國當初ノ目的達成ニ
努ムルヲ現下ノ状況上最善ト認ムルコト亦曩キニ進言セシ

小幡文七郎對露軍情勢論

0391

如クナリト雖形勢ノ急轉直下ニ基ク言論界ノ對日惡化カ豫
期ヲ起スルコト甚大ナル現狀ヲ以テ進展スル時ハ遂ニ一般無
智ノ露人ヲ駈ツテ之ヲ真ノ輿論化シ西伯利亞ニテ亦第二ノ支
那ヲラシメ將來之ト融和スルコト困難ナラシムルニ至ルコトナキヤヲ
恐ル若シ夫レ支那ニ於ケル排日氣勢ノ北同景カ大部米人
ニ因リテ成リ今又該府ノ對亞伯利施設カ近ク支那ニ施サレ
タル所ト殆木同一轍ニ在ルニ想到スル時ハ吾人ハ右記目下ノ
現象ヲ單ニ杞憂ニ過キササルモノトシテ寬假スルヲ得サルノ感ア
リ即チ帝國ハ此際何等カノ手段ニヨリ形勢ノ緩和ヲ圖
リ露人ノ對日感情ノ軟化ヲ需メ以テ大勢力ノ推移ニ煩應
セサルヘカラサルモノアルヲ覺ス

0392

惟フニ文化ノ程度高キ輿論ノ指導ハ單ニ權力ニヨル抑壓
 ニ信賴スルノ誤謬ナルハ言ヲ俟タサル所ナリト虽西伯利ノ現
 状ト其ノ文化ノ程度トヲ基礎トスル時ハ權力ニ支配セシメタ
 ル新聞並普傳ノ利用ハ輿論ノ指導上相當ノ効果ヲ収
 メ得ヘキヲ疑ハス然レトモ浦潮ニ於ケル臨時政府ハ其ノ成
 立及性質上之ニ眞ノ融和ヲ期スルコト困難ナル狀況ニアル
 ラ以テ近ク之ヲ利用スル能ハサルヘシ故ニ帝國ノ政策ヲ消積
 何レニ傾クニセヨ吾人ハ茲ニ相當間接手段ヲ以テ現政治組
 織ヲ破壊シ米國從來ノ施設ヲ轉覆スルト共ニ其ノ性質ノ
 如何ヲ問ハス少クトモ我カ利用ニ便ナル新政治機關ノ樹
 立ヲ希望セサルヲ得ス之レ我カ廟議カ撤兵ニ決セル場合ニ

小林又七朝鮮出張印

0393

於テモ皇威ヲ棄損セシメサル唯一手段タルハ、而シテ政変ハ其ノ準備ト時機ノ撰擇ヨリ其成否ヲ支配セラル、ユトガイダレ事件及過般ノ浦潮政変ノヨク之ヲ實證ス所ナルヲ以テ若シ如上ノ人止圖ヲ實行セントセハ須ク今ヨリ其ノ準備ニ着手セザレハ機ヲ失スルニ至ルヘシ蓋シ鄙見ヲ以テセハ次回ノ政変ハ「ゲエツ」及ヒ米軍ノ西伯利撤退ノ時機ヲ措イテ他ニ之ヲ需ムル能ハサルモノト觀察スルヲ以テナリ

然レトモ茲ニ最モ憂慮ニ堪ヘサルハ米國政策ノ根本義ニ鑑ニ或ハ近ク米國カ帝國ニ對シ撤兵ノ勸告ヲ提議シ我カ止圖ヲ妨害スルノ舉ヲ出テサルナキヤニ事ナリトス故ニ如上ノ人止圖ヲ實行シ對日感情ヲ緩和シ以テ將來覺醒セル露國ニ

0334

好意的妥協ヲ需ムル素地ヲ作ラント欲セハ米國ノ提議ニ先
ジ我カ駐兵ノ口實ヲ求メ且ツ極メテ公明ニ我カ駐兵ニ関スル
主義ト理由ヲ中外ニ聲明スルヲ急務ナリト認ム
而シテ現政治組織破壊ノ準備トシテハ勿論幾多ノ考
策アルヘシト虽モ少クモ米軍ノ撤退完了スルマテハ現政
治機關ノ威力ヲ膨大セシメサルコト最緊要ナルヲ以テ之レ
カ多クセメノコト及「ウィツフォスキ」ニ對シ物資的援助ヲ
繼續シ「ソ」兵團ノ過激派轉化ヲ防止シ且ツ兩者ノ結束
ヲ固クセシメ以テ革命軍ニ對抗セシムル共ニ目下某企圖ヲ
以テ放浪シツツアル「ソ」兵團ノ利用等ニ関シテモ相當
考慮シ置ク外極東ニ於ケル對過激主義防衛ヲ主目的

トスル協同勅作蘭シ極力支那ヲ誘引スルノ要アリト認
メラル又駐兵ノ口實ヲ求ムル手段ニ至リテハ一時掠奪圍
ヲ煽動シ居留民保護ノ名目ヲ獲得スル等モ亦一策
タルヘシト思考セラレ

(終り)

0336

極秘

長

長

(1)

(2)

(3)

(4)

大正九年三月五日

「ケエツク」軍還送輸送ノ状況及ケエツク軍ノ不法行為
 「ケエツク」軍ハ昨年十一月頃ヨリ急遽撤退ヲ開始シ
 總兵力五萬中今日迄ニ浦潮ヨリ乘船帰國ノ途ニ
 就ケレセリニ万一千八百、現在浦潮ニ在ルモノ六千二百
 餘餘約ニ万ハ尚輸送中ニアリ、二月二十六日夕「ケ
 イソワヤ」(貝而湖東岸)間ニ三十八列車、以西「バタレ
 イナヤ」(イルクーク)西方二十(露里)間ニ四十列車
 共以西ニ塞比亞、波蘭及羅馬尼亞軍計十列車
 アリ、「ケエツク」軍ノ後尾ハ三月一日既ニ「イルクーク」
 ニ達セリ

以上「ケエツク」軍ノ還送ニ當リテハ日本軍ノ多大
 ノ助力カアルニ拘ラス日本軍及露軍ヲ監視シ自ラ

G398

俄員加爾鐵道ヲ占領シテ意ノ如ク運行セントシ
之カ爲メ先ツ露軍ヲ崩壊セントシ之ヲ煽動シ及
政府軍ニ好意ヲ表シ又露軍ノ武装解除ヲモ
行ヘリ即チ一月九日「バイカル」「ハイソヤ」両駅間ニ
アリシ「セメノフ」軍全部ヲ突然攻撃シテ武装解
除ヲ行ハシメ三月二日反政府軍ヲシテ「ウエルフネ
ウヂンスク」ニ於テ「セメノフ」軍ヲ攻撃シセシメタリ
其他「ウ」軍ハ「ウ」タレマテ同軍列車ノ突込輸送ヲ
行ハントシ「ウ」タレ工場ニ「ウ」エツク「ノ」機関車職工ヲ入
レントセルモ從來ノ経過ニ鑑ミ集團セル「ウ」エツク
軍カ動モスレハ武力ヲ恃ンテ露軍ニ威壓ヲ加ヘ或
ハ「ウ」エツク「ノ」職工等カ「ウ」セメノフ「ノ」反對ノ煽動ヲ試ムハ
キ「ウ」ト「ウ」明ニシテ若シ之ヲ許シンカ秩序全ク紊レ

6399

鐵道ヲ破壊シ「ケエツク」ノ歸還輸送ヲ阻止スルカ
如キ結果ヲ生シ却テ不利ナルヲ以テ我軍ハ誠意
ヲ盡シテ其不可ナルヲ主張シ來レリ而シテ我足野中
將ハ聯合軍軍事輸送委員長ノ資格ヲ以テ自
ラ「ケエツク」ニ列リ最善ノ努力ヲ以テ「ケエツク」年ノ還送ニ
任シ露軍ヲ極端ニ抑壓シ一週十乃至十二列車ニ
過キサル輸送力ノ大部ヲ奪ケテ「ケエツク」年ニ提供シ
舊「オハスク」政府軍ノ如キハ殆ト徒步行軍ヲナシ
「ソツアル」狀況ナリ、又鐵道従業員ノ同盟罷業ヲ
防クカ爲メ二百萬圓ヲ後員加爾鐵道ノ快用ニ供シ生
活ヲ安固ナラシメ炭坑ニハ衛兵ヲ附シテ出炭ヲ杜
絶セシメサルニ努メ「ソツアリ」
「ケエツク」軍人以上ノ努力ヲモ願ミス日本誠意ヲ

C400

魚視シ兵力ニ討ヘテモ職エヲ入ルヘシト公言レモ或
ハ「モダソシ」コト夕間ニ於テ鉄道法規ヲ魚視シ線
路閉塞シアルニ拘ラス票券ヲ有セスレテ志ニ數
列車ヲ運行シ而モ之ヲ以テ「エツク」停車場同
令官ノ權利ナリト放言スルニ至レリ
抑モ日本軍ハ「中山」軍救援ノ為メ最大ノ兵力ト
最大ノ犠牲ヲ費シ最後ニ其目的ニ志實ナルモ
「ニシテ」今日ニ於テモ最大ノ努力ヲナシツアルコト
斯クノ如クコハ在浦潮「エツク」代表者「ドクトル
ヤルザ」及少將「エツク」ノ感謝状ニ示スカ如シ
後員加爾ニ於ケル「エツク」ノ輸送力中野西伯利
ニ於ケルカ如ク混沌状態ニ陥ラサルハ日本軍及軍
憲ノ努力カ賜ニシテ「エツク」ノ主張ノ如ク鉄道

G401

ヲ其隨意使用ニ供センカ曰本軍ノ存立ヲ危ク
スルノミナラスコト軍ハ露軍ト衝突シ露軍ノ
崩壊過激派ノ蜂起ヲ来シ終ニ徒步行軍ヲ
餘儀ナクセララルコト中部西伯利ノ覆轍ヲ履ム
ヘキコト明ナリ

然ルニコトエワクレカ妄断ヲ以テ日本軍ノ誠意ヲ以テス
ル努力ヲ認メサルノミナラス之ヲ以テ干涉妨害ナリ
トナスカ如キハ我軍ノ存立絶對ニ許容スヘカラ
サルモノナリ

0402

二十六日知多電報

チエヒ軍カ横暴ノ主ナルモ左ノ如シ

一 中部西伯利ニ於テ露國鐵道官憲ヲ無視シ自エ運行ヲ強行セル結果一般ノ運行紊乱シテ露兩軍ノ退却共ニ形容スヘカヲサル困難ニ陥リシハ周知ノ事實トス

二 一月二十九日ヲ夕會議ノ席上ニ於テ波蘭軍代表者コイセフスキ「中佐ハ波蘭軍カクラスノヤルスク附近ニ於テ殆ト全滅ノ悲運ニ陥リシハ全クチ軍ノ横暴ニ依ルモノニシテ予ハ最早「シヤナフ」將軍ノ區處ニ依リ輸送セラルルヲ欲セス一ニ日本軍ノ同情ニ信賴ストノ言明ヲ爲セリ全軍ノ病院列車ニオカ無難ニ「ウエルフネ」ヨリ東進シ得タルハ全ク「夕夕」會議ノ賜ナリ

三 多數ノ「夕夕」軍用列車ハ一月始露國鐵道官憲ニ何等ノ

通告ナクシテ集團運行ヲ以テ後員加爾鐵道ニ進入シ來
リ爲ニ運行ハ一時全ク不可能ニ陥リ而シテ日本軍憲ノ
援助ニ依リ僅ニ今日アルヲ得タリ

四、一月九日ニ於ケル露軍ノ武裝解除及一月十二日ニ於ケル
「ウエルフネ」占領事件ハ今政ニテ茲ニ贅セス

五、「ケ」軍用列車ノ輸送指揮官及停車場司令官等ハ現下
ニ於テモ隨時隨所ニ「テ」スパンケヤ」用電話器ヲ濫用シ鉄
道運行ヲ妨害シツツアリ

六、「ケ」軍ハ一般ニ車輛ノ濫用甚シク千人以上ヲ入レ得ヘキ一列
車ニ僅カニ二百人内外甚シキハ百人以下ヲ載セタルモノアリ
爲ニ列車數ハ五万ノ兵員ニテ實ニ三百列車ノ多キニ上レリ且
之等列車ニハ數千人ノ婦人小供ヲ伴ヒ且掠奪シタリト稱
セラルル莫大ナル荷物ヲ携行シアリ現ニ浦潮ニ於テ五車輛ヲ塞

ケタル程、高價ナル樂器（ピアノ）ヲ賣渡サントスルヲテ軍人アルヲ見タリ

七、¹テ軍ハ今ヤ再ヒ中部西伯利ニ於ケル如キ鉄道運行ノ干渉ヲ後見加爾ニ於テ行ハントスルモノニシテ彼等ノ爲ス儘ニスルトキハ又露國側トシテ紛争ヲ來シ一般運行ハ勿論、¹テ軍ノ輸送スラ不可能ニ陥ルヘテ恐アリ依テ鈴木、星野ノ面中將ハ好意的ニ整理ノ勞ヲ取り兎モ角モ一週間十乃至十二列車ノ¹テ軍ヲ輸送シ得ルニ至レリ

八、最近數千露里ノ徒步行軍ヲ以テ辛シテ貝加爾湖東ニ到着セル¹カペリ¹兵團ノ傷病者ヲ¹テ¹ニ收容スル爲先週間ニ於テハ¹テ軍ノ爲セ七列車ヲ配當セラレタルニ過キサルモ今週ニ於テハ既ニ十列車ヲ配當セラレタリ

九、東支鉄道ヨリ迴送セル十二台ノ機関車ハ¹テ軍カ困難ナル

後衛戦ヨリ免レン爲假令「カエルフネ」以東ノ輸送一時遅ル
ルトモ可ナリトノ條件ノ下ニ同軍ノ希望ニ依リ「ムイソワヤ
以西ノ同軍ニ引渡シタリ然ルニ同軍ハ既ニ過激派軍ト安
協セルヲ以テ此目的ハ既ニ達成セラレタルノミナラス浦潮
ニ於ケル船舶ノ景況ハ必スシモ「ナ」軍ノ強要スルカ如キ迅
速ナル輸送ヲ必要トセス
十、而モ最近ニ至リ「ナ」軍ハ自己ノ意ノ如ク歸還輸送實施
セラレサルノ故ヲ以テ露國側ニ無謀ナル要求ヲ爲シ刺ハ
之カ爲日本軍ノ守備管区内ニ於テ其ノ兵力ヲ使用セシ
コトヲ企圖シ「ジョyson」ハ「スミス」ハ之ヲ公言スルニ至リ

0406

在「ハルピン」チエツクスロバツク」軍情報局ヨリ

「ジヤパン、アドバタイザ」ニ寄セタル陳情書

日本ノ議會ニ於テ政治家及軍人ノ爲ニシタル陳述
ニ依レハ日本軍ハ「チエツク」軍ノ西伯利撤退ヲ速カ
ナラシムル爲メ大連及浦潮ヲ經テ西伯利及滿洲
ニ派遣セラレアリトノ事ナルモ實際ノ事實ハ吾人
ヲシテ其ノ眞想ヲ陳述スルノ止ムヲ得サルニ至ラ
シメタリ

「チエツク」軍ノ西伯利撤退ハ「チエツク」軍司令部カ
聯合國並露國各政派ノ同意ヲ得ル爲メ採リ
タル手段ニ依リ成功ヲ收メタルモノニシテ當初ヨ
リ最近迄「チエツク」スロバツク」高等司令部ノ計画
ニ基キ支障ナク進捗シツアリ今日迄ニ起リ來レ

ル困難ハ主トシテ技術的性質ノモノ例ハ輸送材
料及石炭ノ不足ノ如キモノニシテ吾人ハ露國人民
トノ平和的協力ニ依リ之等ノ障碍ヲ處置シ得撤
退ハ一月以内ニ完了シ得ヘキモノナリキ政治上ニ
於テハ目下何等懸念スヘキ事ナシ
然ルニ日々増員ニツツアル在西伯利日本軍ノ目的ハ
何處ニ存スルヤ彼等ハ「チエック」軍ニ對シ何等カ
ノ技術的援助ヲ爲シ得ルヤ曰本軍ノ増加ノ結果之
カ移動ノ益多クノ輸送ヲ必要トスルニ至リ斯ク
シテ現在既ニ輸送材料ハ不足シアルヲ以テ此行動
ハ益「チエック」軍撤退ノ進捗ヲ妨害スルニ至ル加
之「チエック」軍ハ斯ノ如キ大ナル援助ヲ要セサルノ
ミナラス未タ嘗テ之ヲ請求シタルコトナキナリ

0408

「マイソワヤ」停車場ヲ通過シ得ヘキ列車數ハ前
週セヨリ一ニ減セラレ從テ「チエック」軍ノ西伯利
撤退ハ一ヶ月ヲ以テ「リ」得ヘキモノ^{少クモ}三月ニ延長スルニ
至ルヘシ、日本軍ノ援助實ニ感謝ニ堪ヘス斯ノ如
キ情況ニ於テ「チエック」軍列車ハ運送船カ浦潮
ニ到著スヘキ時期迄ニ同地ニ到着シ得サルヘシ
「チエック」軍司令部ハ東京華府又巴厘ニ於ケ
ル「チエック」政府代表者ニ訓令マシ日本カ附與シツ
ツアリト稱スル不必要ノ援助ニ對シ抗議シ「チエ
ック」運送船ヲ日本人ニ依リ留メラルルコトナカルヘ
キヲ要求シ且在西伯利日本軍憲ニ對シ鐵道
ノ能力ノ許ス限リ多數ノ列車ヲ通過セシムヘキコ
トヲ請求セシメタリト聞ク

G409

「チエツク」撤退ヲ妨害スヘキ障害物ノ設置ハ結局甚ク面白カラサル結果ヲ齎スコトアルヤモ知リス「チエツク」軍ノ兵力ハ將來起ルヘキ顧慮アル各種ノ危険ニ對シ軍事的ニ自衛ヲ行フ爲メ充分強カナリ而シテ「チエツク」軍ハ自己カニ個ノ外國軍ノ利益ノ爲メ緩衝器トシテ使用セララルコトヲ抗議スルモノナリ我軍人ハ歸國ヲ欲シアリテ此事實ハ明瞭ナルノミナラズ其ノ神聖ナル權利ナリ故ニ彼等ハ露國領土ニ於ケル軍事的干涉ヲ強クナラシムル爲メ使用セララル事ニ對シテハ嚴ニ反對ス從テ日本軍ニシテ若シ此ノ以上ノ妨害又干涉ハ其ニ不利益ニシテ且ツ好マシクテサレコトナルヲ了解セハ彼等「チエツク」軍ハ大ニ満足スヘシ

0410

目下日本軍「ウエルフネウジニスク」ヨリ撤退スルノ徴
候アリ是レ日本軍ヲシテ二日以内ニ同地方ヲ撤退
退スヘシトノ過激派ノ最後通牒ノ結果ナリト
察セラレ

0411

極秘

左記ハ三月四日「ツヤパン」アドヴァータイザ」ニ掲載シアリ
シモノヲ譯出セルモノトス

日本ノ援助ニ對スル「チエツク」ノ不満

在哈爾濱「チエツク」情報局ヨリ「ツヤパン」アドヴァータイ
ザ」ニ寄セタル陳述書ニ依リ「チエツク」軍輸送ニ
關スル日本ノ援助ハ寧ロ「チエツク」ノ輸送ヲ妨害
シツツアリトテ日本ノ此ノ行動ノ裏面ニハ何等カ
原動力アルヲ暗示シ而シテ全局ヨリハ日本ノ援助
ヲ拒絶スルカ如ク東京、華盛頓及巴里ニ打電セリ
然ルニ他方東京朝日新聞ハ昨日「西伯利」ニ於ケル
「チエツク」軍輸送ハ豫定ノ計畫ニ基キ實施セラレ三月二十
日頃ニハ其ノ輸送ヲ完了シ今時ニ日本ノ守備地域ヲ

0412

縮少スルト共ニ日本軍ヒ亦遠カラス撤兵ス可シト報ス

黒龍線撤退ノ完了

本件ニ関スル公報ハ近ノ開カルヘキ特別外交委員會
ニ於テ正式ニ政策ヲ決定セル後發表セラレハシト朝
日ハ附記セリ朝日新聞哈爾賓特電ニ依リハ黒龍
於ケル日本軍ノ撤退ハ完了シ最後ノ列車ハ二月ニ
十八日コノケンガレ停車場ニ達セリ(因ニ日本軍ノ黒
龍線撤退ハ未タ其ノ一部ヲ完了セシノミニテ本記事
ハ事^ノアラス)

昨日東京ニ達セル電報ニ依レハコチエツク^ル第一師團
ノ主力ハ巴^ニ浦潮ニ達セリ此ノ師團ノ残部ハ六列車ニ
分乗シ^テホクラニチナヤ^リ又浦潮ニアリ

G413

第二師團ハ「ハイラル」及「マイソワヤ」間ニ在リ

第三師團ハ「マイソワヤ」及「イルクック」間ニ在リ

「チエツク」ノ總司令部ハ二月二十七日「チタ」ニ向ヒ「ウエル」フネ

ウジンヌク」ヲ出發セリ、而シテ「ミヤナ」ニ將軍ハ目下哈

爾賓ニ止マリアリ

浦潮ニ集合セル「チエツク」ノ總數ハ約六千五百人ナリ、

約二万ノ「チエツク」軍ハ四月末迄ニ故國ニ向ヒ浦潮ヲ

出發シ得ルモノト豫期セラレ

後具加爾地方ニ於テル困難

全「チエツク」軍ハ「イルクック」ヲ過キ後具加爾ニ

入レリ然シ此ノ地域ニ於テル輸送ハ多数ノ障碍ノ

為非常ニ不良ナリト西伯利佛國軍事委員長「ツヤ

ナニハ土曜日哈再賓ニ到着シ同地朝日新聞通

信員ニ速タリ

「チエツク」軍ノ西伯利撤退ニ関シ如何ナル外國ノ援
助ヲ必要トスルヤノ問ニ對シ「シヤナ」ハ答テ曰ク「チ
エツク」軍ハ佛國指揮官ノ下ニ在テハ勇敢ナル故
何物モ其ノ目的達成ヲ妨タルモノナシト
「チエツク」軍ハ自己ノ武カヲ以テ彼等ノ前ニ横ハル
凡テノ障害ヲ除去シ得ヘシ

「ジヤナ」ハ曰本ト「セメヨ」ノフ「ト」ノ關係ニ就テハ言
フ避ケタリ然シ「セメヨ」ノフ「ト」他ノ聯合國間ニハ好關
係ナリト附加セリ通信員ハ附言シテ曰ク「シヤナ」ハ
後貝加爾ニ於ケル曰本軍カ「チエツク」軍ノ輸送ニ對ス
ル援助ノ不充分ナルコトニ関シ不満ナルカ如ク見ユト

G415

在哈爾濱ヲチエツク情報局カ發表セルツヤパンアドヴァ
ータイガールニ送ラレル陳述書ニハ「チエツク」ハ「チエツク」
軍援助ノ為メニハ西伯利ニ日本ノ大軍ヲ駐在シ置ク
必要ナシト考フト言ハリ

C416

軍令部

第三班

別 濟

2 配 野

受

第三班

受

外務省政務局第二課

軍務局

受

在巴里 上田 書記官 調査

第三班 受

小林

受

受

受

受

受

中

官房受
三月廿四

受

軍務局受

9. 3. 30

0417

露國事情 (外交)

三百十四

大正九年一月一日 (木)

露國ハ「ボルシエ」政府機關「ラウダ」新聞ノ記事ニ依レハ英佛
伊三國ハ「ボルシエ」政府代表者「リトヴィン」ノ平和提議ヲ
拒ケタルモ米日兩國ハ之ヲ受附ケタリトアリ又同新聞ハ本件ニ關シ英佛
伊三國ハ「ボルシエ」政府ト平和談判ヲ欲セサルモ米日兩國ハ然
ラスシテ三國ト見解ヲ異ニスト論セリ

(コロスコイ二四五)

莫斯科ニ於テハ第七全露勞兵會大會後全露共產黨大會ヲ開ク同會議ニ於テハ對政府問題議セラレ且又勞兵會本部廢止ノ動議出テタリ「レーニン」ハ勞兵會本部ノ行動ヲ辯護シ其ノ結果右動議ハ否決セラレタリ十二月二日「レーニン」ハ大會ノ席上ニ於テ爾來内政ニ力ヲ用フルノ必要ヲ説キタリ同人ノ言ニ依レハ勞農政府ハコレ迄主トシテ外部ヨリ來レル敵ト奮闘シタリシ爲内部ニ力ヲ用フルヲ得スシテ國內ノコトハ第二トナリタルモ今ヤ國內ノコトヲ主トスルヲ要ストアリ「レーニン」ハ「スロシイニ四五」

露國事情(軍事) 三百十六 (一月一日(木))

露國「ボリシエツキ」政府機關「ブラウダ」新聞ノ報道ニ依レハ現在

西比利亞ニ在ル獨逸ノ俘虜ノ數ハ左ノ如シ

洪牙利人 一五〇〇〇

奧國 人 一三〇〇〇

チエツク人 四九、〇〇〇

獨逸 人 二〇、〇〇〇

(コロスロシイ三四六)

G420

露國事情（軍事） 三百十七

一月二日（金）

元「ルスコニスロウオ」新聞通信員「ボリヤコフ」ハ此ノ間「エロロツ
ペイスカヤトリプ」ナリ新聞ヲ以テ露國「ボルシエウ」キ「軍ニ勳務中
ナル舊將軍ノ人名簿ヲ公ニセリ其内ニ左ノ如ク有名將軍ノ姓名アリ

「チエレムイツ」將軍（舊西南戰方面軍參謀長）

「ズウエイチン」將軍（知名軍學者）

「バイオフ」將軍（舊第六師團長）

「セリワチエフ」將軍（舊第四芬蘭土師團長）

「ナデージスイ」將軍（舊第六軍團長）

「スイチン」將軍（舊ルマニヤ戰方面參謀長）

「エロリエフ」將軍（舊軍團長）

「ホンテブレウイツ」將軍

0421

「ウエリチヨ」將軍（陸軍技師）

「ベリヤトーエフ」將軍（砲術家）

「エトヴェルト」將軍（現在「コルチヤツク」職線ニ於テ赤軍ヲ指揮

シツツアリ）

「タートル」將軍（先頃「キエフ」ヲ占領シタル赤軍司令官）

（ロシヤ十二月三十一日）